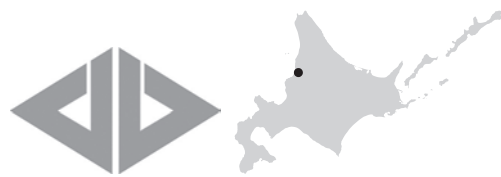




みんなでつくる まち・ひと・きぼう 次の時代へ続く留萌

留萌市



留萌市基礎データ

総人口	19,285人 (R4.11末現在)	漁獲高	396百万円 (R3 留萌市統計書)
高齢人口 (高齢化率)	7,438人 38.57% (R4.11末現在)	製造品出荷額	8,714百万円 (R3 経済センサス)
世帯数	10,931世帯 (R4.11末現在)	卸・小売年間販売額	51,477百万円 (H28経済センサス)
人口密度	68.0人/㎢	一般会計規模	14,318百万円 (R4 当初予算)
面積	297.84㎢	町の花	ツツジ
農業産出額	475百万円 (R3 留萌市農林水産課)	町の木	アカシヤ

みなとまち留萌

留萌市は、北海道の北西部に位置し、西には日本海、南北には暑寒別天売焼尻国定公園が連なり、暑寒別山系をはじめ、夢の浮島といわれる天売・焼尻が望めます。特に晴れた日には、遠く利尻の島影が夕日の輝く日本海に浮かぶ姿が見られる風光明媚なまちです。



重要港湾に指定された「留萌港」

また、豊かな自然に恵まれた留萌市は、海と山の新鮮な旬の幸が集まり、タコ・ヒラメ・ウニなどの海産物や、道内屈指の高品質米など、四季折々の食彩が豊富です。

アイヌ語で「潮の静かに入るところ」とい

う意味をもつ“ルルモッペ”と呼ばれていた地に流れる留萌川の河口付近にアイヌ民族の集落が形成され、慶長年間に交易場所「ルルモッペ場所」が開設されました。サケやマス、昆布などの取り引きが活発に行われ、好漁場として当時の大型船が集まったことから、河口付近の整備が進められました。これが現在の留萌港の基礎となっています。

明治43年(1910年)からの北海道拓殖計画事業により築港工事が始まり、石炭の積出港として発展した留萌港は、昭和27年(1952年)に重要港湾に指定され、現在は、旭川市を中心とする上川・空知地方の産業・生活物資の海上物流拠点として、また、日本海を漁場とする沿岸漁業の基地として重要な役割を担っています。

かずの子のまち留萌

留萌市は「塩かずの子加工生産日本一」を誇り、その歴史は古く、昭和32年(1957年)ごろまでは、留萌近海で捕れるニシンを加工していました。ニシンが水揚げされなくなっ

料をカナダなどから輸入し、品質を継承してきました。

かずの子は、正月の縁起物としておせち料理に欠かせません。近年では、代表的な塩かずの子や味付けかずの子に加え、市内企業のアイディアにより、「カズチー」という名の薫製かずの子とチーズの組み合わせや、マヨネーズ和えなど、バリエーション豊かなかずの子加工品が販売され、普段の食事を彩る一品として食卓に登場する機会も増えています。

平成27年（2015年）10月、北海道水産加工協同組合連合会により、子どもの健やかな成長を願う「5月5日・こどもの日」にちなみ、子孫繁栄の縁起物でもある「かずの子」を食べ、改めて両親（二親＝ニシン）に感謝する日本の食文化を継承していく日として「かずの子の日」を制定しました。

また、平成28年（2016年）には議員提案により「留萌市かずの子条例」を制定し、消費拡大と地域経済の活性化、郷土愛の醸成などに取り組んでいます。



加工生産日本一を誇る「かずの子」

ふるさと納税を通じた留萌のPRと特産品づくりの推進

留萌を代表する「かずの子」をはじめとした水産加工品、ふっくらと柔らかく炊き上がる低たんぱくの高品質米として評価を受けて

いる留萌産「ゆめぴりか」や「ななつぼし」、留萌管内でのみ生産されている小麦「ルルロッソ」などのふるさと納税の返礼品の開発や物産のPRを強化しながら、関係人口の拡大を進めています。

留萌市では、令和4年度（2022年度）から新たにふるさと納税課を設置し、市が持つ様々な魅力を市外へと発信し、多くの方にこの地域に目を向けていただき、寄附の増加に結びつけるとともに、これまでの観光PRという観点から、この地域のライフスタイルなど、より広い視野でのシティープロモーションに取り組んでおります。

市の紹介や、お勧めのふるさと納税返礼品、特産品の紹介など、留萌市の食や自然を魅力的に発信し、寄附で応援したくなる、ふるさと納税特設ページを開設しておりますので、ぜひ一度ご覧ください。



ふるさと納税返礼品の留萌産高品質米

「道の駅るもい」・「ちゃいるも」オープン

令和2年（2020年）3月、高規格幹線道路深川・留萌自動車道「留萌IC」が開通し、北海道で初めて高規格幹線道路が全線開通し

たことを契機に、都市間を結ぶ高速ネットワークの形成による新たな流入人口の広域交流拠点として、約7.8ヘクタールの都市公園を有した「道の駅るもい」を同年7月にオープンしました。

道の駅では、留萌地域への玄関口として、地域情報の集約・発信のほか、アンテナショップの開設や、産直イベント「うまいよ！るもい市」など季節ごとのイベント開催により、地域の優れた産品等の販売促進・PRの場であるとともに、市民からも地域の賑わいの場として親しまれております。

さらに、令和4年（2022年）4月には、広大な都市公園を活用し、親子でゆっくり時間を過ごせるくつろぎの空間として、カフェ機能も兼ね備えた全天候型の屋内交流・遊戯施設「ちゃいるも」をオープンしました。屋内で子どもを遊ばせることのできる遊戯ひろばは、幼児から小学生の子どもたちが滑り台やクライミングウォールなど、家庭で遊ぶことのできない遊具を使い、自由に体を動かすことで、バランス感覚や体力、創造力などを育むことができ、保護者も安心して見守りながら遊ばせられる空間となっております。



屋内交流・遊戯施設「ちゃいるも」遊戯ひろば

アウトドア拠点施設の整備

これまで海水浴客中心の夏季限定の体験型

観光がメインとなってきましたが、ウィズコロナ時代を見据え、本格的なアウトドア観光を軸とした観光事業の推進に磨きをかけ、新たな人の流れを呼び込み、恵まれた環境を生かした「稼ぐ観光」にシフトすることが重要であり、観光ステージの大きな転換期であると考えております。

令和3年（2021年）3月、国内屈指のアウトドアメーカーで、アウトドアを基軸とした地域活性化を手掛ける株式会社モンベルと包括連携協定を締結し、モンベルが手掛けてきたアウトドアに関する様々な活動や知見を活かし、留萌市および留萌地域の地域特性を活かしたアウトドア観光による観光振興を進めたいと考えております。具体的には、道の駅エリア内に、アウトドア観光を進める拠点施設となる「モンベルアウトドアヴィレッジるもい」を整備し、アウトドア拠点施設としてモンベル直営店の誘致やコテージ棟、デイクャンプ施設など順次整備を進める予定です。



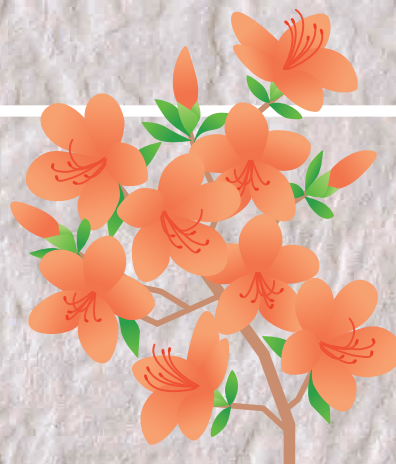
発展を続ける道の駅るもいエリア

留萌地域には、南方に暑寒別岳、北方に利尻富士を望み、日本海には離島である天売・焼尻島など、美しい景観、豊かな自然環境があり、地域の魅力を発信しながら、交流人口・関係人口を生み、地域経済の活性化につなげていきたいと思っております。

留萌市の四季



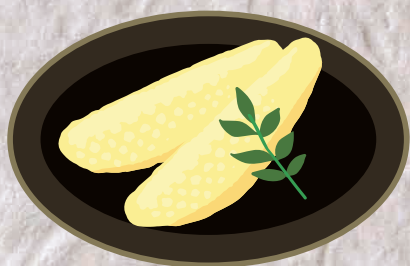
【春】神居岩公園の桜ライトアップ



【夏】ゴールデンビーチるもい



【秋】るもい呑涛まつり



【冬】海岸線を覆うけあらし